

館 林 商 工 高 等 学 校 学 校 評 価 一 覧 表 ② （令和4年度版）

（様式2）

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくり に努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、85%以上である。	A	A	A	・学校行事や集会等、生徒会や分掌で情報共有しながら、生徒の活躍のチャンスをできるだけ多く設けられるよう工夫してきた。	・地域の人材を育成するということが商工の大きな特色となっている。生徒の活躍の場が多くあり、それらが地域に密着していることもよい。生徒が主体的に取り組めている姿は中学生にも見せたい。	・コロナの感染予防による様々な制限の緩和に合わせて、生徒の活動も通常に近づくことが予想される。生徒の活躍の場を積極的に増やしていきたい。
		② 専門教科の特色を生かした教育活動（課題研究等）に、生徒の85%以上が満足している。	A	A	A	・地域の方々の協力のおかげで、課題研究や実習のなかで、地域連携等とおして専門教科の特色を生かした教育活動を行ってきた。		・課題研究や実習をとおして生徒が主体的に課題解決取り組む環境を多く用意する。地域の方々の協力も仰ぎながら地域連携にも積極的に取り組んでいく。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③ 授業について、生徒の80%以上が「分かる授業」だと感じている。	A	A	A	・新しい学びのための授業改善事業に基づいて、授業アンケート・研究授業・授業研究会を実施した。授業アンケート結果やクロームブック等のICTの活用法を知ることや授業研究会によって授業改善の意識が高まった。	・生徒の研究活動の中にPDCAサイクルをとりいれているものがあるが、社会に出たら仕事でも使うし、高校生の将来に役立つ学習活動であり、今後も続けてほしい。	・ICTを活用した授業、スタディサプリ講座等を活用した授業を実施することによって、より分かりやすい授業、生徒が主体的に取り組める授業になるようにさらなる授業改善を目指す。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	④ 自己の目標に対して、確かな学力を身に付けていると感じている生徒が80%以上である。	B	B	B	・肯定的評価をしている生徒は、84.0%であったが、課題・小テスト等を増やして、学力の定着を図っていく。		・定期考査前の補習計画、長期休業中の課題の取りまとめ、学力テスト等の計画を発展的に継続していく。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑤ 全ての生徒が、学校生活に対して挨拶やマナーを守っていると感じている生徒が85%以上である。	A	B	B	・生徒、職員の協力により、学校全体として、挨拶やマナーの遵守等が概ね励行されているが、低下傾向にある。生徒一人ひとりの意識をさらに高めていけるよう、学校全体で取り組んでいく。	・交通事故が気になる。大きな事故も起きている。ヘルメット着用の指導を今後も継続していつてほしい。近くに大型商業施設もできることもあり、交通安全に対する意識をさらに高めていくといい。	・生徒の自己指導力の育成に向け、いかに学校として、組織的に取り組むか、効果的な方策を考察する。 先ずは教職員が率先垂範の姿勢で指導を行っていく。
		⑥ スクールカウンセラーや特別支援コーディネータを活用し、生徒への早期対応を図り、学校不適應者をなくす。	A	A	A	・スクールカウンセラーや特別支援コーディネーターとの協力体制が確立され、また専門アドバイザーの協力も得て、学校不適應生徒への早期対応に努めている。		・スクールカウンセラーや特別支援コーディネーター、専門アドバイザーとの協力体制が確立され、具体的な支援・指導方法を提示することができている。今後も職員間の連携を密にし、組織で対応していく。
		⑦ 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	・今年度も、関係部署との情報共有を密に行い、生徒の指導に生かすことができ、問題の早期対応につながった。		・生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるよう、職員への研修も行っていくと共に、生徒が主体となって「いじめ防止活動」に取り組めるよう、支援・指導を行っていく。
	5 生徒は、健康で規則正しい生活を送っていますか	⑧ 不規則な生活による遅刻者が、前年比80%以下である。	C	B	B	・遅刻者は前年比97.6%と減少した。朝の登校時指導など、教職員一体となって指導を行ってきた。ただ、依然として安定した生活習慣の難しい特性の生徒もいる。今後も学年、係等で連携を図り、状況改善に努めたい。		・朝の登校時指導を継続し、今後は生徒主体の挨拶運動等も実施していくと共に、遅刻者への指導を組織として、全職員で協力して行っていく。また、生徒の特性を考え、必要に応じて専門機関と連携していく。
	6 生徒の安全について配慮した指導を行っていますか。	⑨ 交通事故等の未然防止について90%以上の生徒が意識を持っている。	B	A	B	・日頃の交通安全指導により、生徒の意識向上を図り、今年度は事故が減少した。アンケートの結果97.0%以上の生徒・保護者が交通マナーを「守っている」と感じているが、教職員との意識に差がある。		・交通マナー、モラル等の向上について生徒の主体的な活動を発展させる方法を考えると共に、スケアードストレイト等で交通事故を再現することにより、事故の衝撃や怖さを実感させ、交通ルールの必要性について生徒自身に考える機会を与えていきたい。
		⑩ 環境面・保健面で生徒の安心安全を確保するために、適切な対応方法を理解している生徒が80%以上である。	A	A	A	・職員対象のAED講習会を実施し、新型コロナ感染対策の共通認識を図った。生徒対象の熱中症セミナーを実施し、健康観察を継続して行った。また、避難訓練を2回実施し、生徒や職員の緊急時の対応方法の理解に努めた。生徒はおおむね理解していると答えているが、職員の認識は76.0%にとどまっている。		・緊急時の対応について、年度当初及び各学期の職員研修会で周知し、全職員の共通認識を図る。 ・新型コロナ感染対策について、適切な方法を外部機関と連携して情報発信し、生徒にきめ細やかな指導を行う。

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 生徒が自己の特性を認識し、それを積極的に生かす指導を行っていますか。	⑪ 進路実現に向けて資格取得や技能習得に積極的に取り組んでいる生徒の割合が90%以上である。	B	A	B	・86.9%の生徒が肯定的に答えた。数値は下降傾向にあり、生徒のモチベーションを高める必要がある。検定対策学習だけでなく、資格試験の重要性と必要性および、社会的な役割などについて、しっかりと説明するように努めたい。	・資格取得において、やらされるのではなく、生徒自身が興味をもって取り組んでいる姿が素晴らしい。 ・3年生の課題研究において、学校外に出て行って活動する形は、様々な技術を身につけることが期待できて、とてもよい。必然的に相手とコミュニケーションをとらないと活動できず、効果的な社会勉強になるので今後も続けてほしい。	・資格試験に挑戦することでの「学びの気付き」と試験に挑戦した後で「学びの振り返り」を可視化できるように工夫する。
	8 適切な進路決定を行なえるよう、保護者の協力を得ていますか。	⑫ 進路実現について、85%以上の生徒や保護者が進路情報を理解し、関心を持っている。	A	A	B	・85.6%の生徒と77.0%の保護者が肯定的に答えた。ICTを活用した進路情報の発信を推進し、保護者参加型の進路行事を積極的に実施する。		・ICTを活用した情報発信の定着と、保護者参加型進路行事の計画および、具体的な支援を行う。
	9 進路実現を積極的に行うことができるよう、校内での組織的な取り組みを行っていますか。	⑬ 進路実現に向け、面接や小論文などに、3年生の80%以上の生徒が主体的に意欲を持って取り組んでいる。	A	A	A	・80.6%の生徒が肯定的に答えた。取り組みを後回しにしている生徒に対して、個別に適性検査を実施したり、外部講師との面談を設定したりするなど、個に応じた支援プログラムを策定し、実行する。		・生徒の進路学習が後手に回わらぬよう、早期の取り組みを促し、それを支援できる体制を整える。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭や地域社会に対して、学校教育活動を積極的に発信していますか。	⑭ 本校の教育活動について、保護者の80%以上が関心を持っている。	A	A	A	・86.5%の保護者が肯定的に回答している。自分の子供の学校に関心を抱くのは当たり前だと思う、小さな情報を積極的に発信することが重要であると感じた。地域社会に対しては、中学校に「母校訪問」を実施し、新たな情報発信の方法を試みた。受け入れてくれた中学校については好意的な感触を得た。	・地域連携を積極的にやっていてよい。その際、企業の担当とも積極的に連携をとるとよい。進路指導部も企業と連絡を取り合っているが、アプローチしていれば企業もさらに協力的になる。	・本校の関係者はもとより、地域社会やその他の人々にも関心を持ってもらえるよう、ニュースバリューの高い情報を広く発信したい。今年度のように、部活動で華々しい結果が出たときは特にアピールできるチャンスである。
		⑮ PTA総会や学年保護者会等に、積極的に参加している保護者が70%以上である。	B	B	B	・PTA総会が対面式で再開できたのは大きな成果であり、学年保護者会や授業参観の参加率は高い。保護者に必要なPTA活動とは何かを落ち着いて考える時である。		・地域の学校と連絡を密にし、PTAの諸活動が再開できるようにする。また、保護者が参加しやすいような、より魅力的なPTA活動になるよう工夫が必要である。
	11 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑯ 学校評議員制度を活用し、実施可能な提言を2つ以上取り入れ、学校運営改善に役立てる。	B	B	B	・自転車運転時のヘルメット着用の向上を図るために、のぼり旗を作成し、周知した。また、地元企業や自治体等との協力のもと、地域連携活動を充実させた。メディアへの広報活動を通じて、地域住民等へ本校の魅力を伝えることができた。		・自転車運転時のヘルメット着用率を増やす工夫をする。また、地域連携をより充実させ、進路決定につなげられるようにする。
		⑰ 地域の社会人を講師とした講演会を年2回以上実施している。	B	A	A	・地域の流通関係企業から講師を招き「マナー講習会」を実施したり、本校卒業生の企業経営者を招いて講演会を開催したりして、キャリア教育の推進に努めた。		・地元企業の方を講師として迎え、社会が身近に感じられるようにする。
	12 地域の学校や企業等と連携していますか。	⑱ 地域住民や地元企業等と連携した活動を年3回以上実施している。	A	A	A	・課題研究の授業を通じて、地域の産業活性化に向けた取組を多方面で展開することができた。		・地域の行政や地元企業に積極的に働きかけ、教育活動の充実を図る。 ・進路と連携して、来校していただいた企業に、インターンシップの可否を伺い、研修先の多様化を図る。
		⑲ 地域の幼稚園・小中学校・大学と連携した教育活動を年2回以上実施している。	B	A	A	・百年小麦の播種体験での多々良保育園生の指導や関東学園大学から講師を招いて、「6次産業化」についての出張講義を実施した。 ・オープンスクールでは、在校生が中学生に説明をしたり、実習体験を指導した。		・出前授業や、オープンスクールなど、生徒が主体的に関わり、中学生が体験する機会を増やしていく。 ・工業系、商業系で連携を図り、共に活動を進めていく。
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ 生徒の80%以上が「ICTを用いた授業が行われている」と回答している。	B	A	A	・ICTを活用している授業では、わかりやすく、生徒が興味関心をもてる授業となっている。	・学校によっては、出欠連絡や健康観察もICT化されてきている。今後も学校運営にICTを積極的に生かしていったほしい。ICTを学習の場で活用する際、コミュニケーション力が心配になることもあるが、プレゼンテーション能力等は確実に上がってきていると思う。	・生徒の84.6%が肯定的な評価をしている。今後も多くの場面でICTを用いた授業が行われるようにしていく。
	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑ 働き方改革に伴う、業務の効率化を図り、職員会議及び職員朝会のペーパーレス化を70%以上実施している。	A	A	A	・職員会議や朝会のペーパーレス化を進めてきた。		・ペーパーレス化をさらに推進していく。またICTを活用することで可能な業務改善についても積極的に実施していく。